令和４年度　府立鳥羽高等学校　学校経営計画（ｽｸｰﾙﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄﾌﾟﾗﾝ）（実施段階）

全 日 制 課 程
令和５年３月28日

学校経営方針（中期経営目標）	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
教育方針「人間性」「先駆者精神」「克己」の理念をあらゆる教育活動に活かし、知・徳・体のバランスに配慮した生徒一人一人の学力の向上と個性の伸長を図り、地域社会から期待される人材の育成を図る。スーパーグローバルハイスクールの指定を機に策定した、グローバルリーダーを育成するための5つの力「価値創造力・協働力・突破力・寛容力・教養力」を土台に、WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業において育成する6つの資質・能力*を育む。 *①歴史をとおして世界を俯瞰する力②多様な文化的背景を持つ人と協働する力③科学的に思考・吟味する力④新たな価値を創造する力⑤課題解決の枠組みをデザインする力⑥困難な状況を突破する力 平成22年度策定「Mission Statement」の実現 ◆ミッション 「自律する人間」の育成 ◆ビジョン 〇育てる生徒像…克己心・挑戦・自己理解・目標の設定と達成・夢の設計と実現 〇実行する教育…考える力育成・克己への支援・心身の鍛練・社会性育成 ◆長期目標 〇在校生…課題を発見し、考え、まとめ、発信できる。 〇卒業生…母校に誇りを持ち、社会に貢献する。 〇中学生…夢が叶う高校として憧れる。 〇教職員…夢を共有し、ビジョンの実現を目指し、協働する。	〇学習指導：スマートスクール事業等の取組を行うとともに、令和3年度入学生からBYOD(1人1台タブレット)を導入し、授業、ホームルーム、家庭学習など、様々な場面においてICTを用いた教育活動を推進することができた。また、HAD会など教職員によるICT活用の研修会を定期的に開催するなど、組織的な取組を行うことができた。ICTを用いた教育活動の検証・評価を実施し、教育効果をより高めることが課題である。また、主体的に学習等に取り組む生徒を探究学習等をとおして育成することが課題である。 〇生徒指導：全学年とも挨拶、服装、言葉遣いを正しくできた。引き続きマナーや時間を守ることを重点的に指導していく。また、生徒に対してタブレットの使用規定をしっかりと指導する必要がある。 〇人権教育：様々な人権学習や人権啓発活動をとおした、人権の大切さを認識させることができた。あらゆる機会において自他尊重の精神を涵養しつづけなければならない。 〇WWL：拠点校としてカリキュラム開発等の取組を着実に実施できた。コロナ禍のため海外研修や海外インターンシップ等の取組は実施できなかったが、オンラインでの国際交流やインターンシップなど、ICTを活用することで新たな形態で実施することができた。研究開発3年次の取組を進めるとともに、指定期間終了後に向けて自走できる体制を整えることが課題である。 〇部活動：体育系・文化系ともにコロナ感染対策を徹底しながら創意工夫をこらした取組を継続し、前向きに活動することができた。全国大会に出場する部も多くあった。学習と部活動の両立をしつつ、効率的かつ安全に配慮した活動を模索し続けなければならない。 〇広報活動：コロナ禍での制限がある中、HPに学校紹介動画の掲載し、学校説明会においてオンライン配信を行うとともに生徒による発表機会を増やすなど、新たな取組を推進できた。HPの掲載内容をさらに工夫しつつ、学校説明会等で生徒が自分たちで学校の魅力を発信できる機会を増やしたい。	(1) 自他尊重の精神を基盤とする人権感覚を涵養し、規律ある中で互いに助け合い切磋琢磨する質の高い学習集団を作る。挨拶から出発し、対話（主張と受容）を重視することで主体的な思考を促す。 (2) 学びを第一に学習・部活動等の教育活動を行う。学んだことを整理、体系・系統化、応用、共同思考することを意識し、その際にはICTの効果的な利活用も図る。 (3) 社会との関連を重視しながらキャリア観を形成しつつ学力を伸長し、希望進路の実現を図る。 (4) WWL拠点校・スマートスクール事業実証研究校としての次の三つの重点項目について成果の検証を行う。 ①カリキュラム開発　②BYODを活かした授業改善、教育的活用 ③対面＋オンラインによるグローバル教育の推進 (5) 単位制の特長を活かした教育活動の充実と、新学習指導要領のカリキュラム及び科目研究をさらに進める。 (6) 部活動を通して、各部の目標達成をめざすとともに、自律する人間の育成と個性伸長を図る。 (7) 本校の教育実践や生徒の活動を積極的に広報することにより、本校の教育活動への理解を深める。 (8) 働き方改革を進め、生徒と向き合う時間をより多く確保する。

評価領域	重点目標	具体的方策	総括			成果と課題
学習指導	単位制の特長を活かしたリベラルアーツ教育を推進し、生徒の学力・教養力向上を図る。	生徒の知的好奇心を高め、あらゆる教育活動を通じて思考力・判断力・表現力を養い、生徒一人一人が主体的に課題を設定し自学自習に取り組むよう指導する。	A		A	・観点別評価とそれに基づく指導により、生徒が自己の成長を実感できる機会となった。 ・観点別評価については、今年度の検証を生かして、評価規準や教員間での評価の整合性について継続して協議・検討する必要がある。 ・カリキュラムについて、理系生徒の受験に対応できるよう、さらに検討を重ねる必要がある。 ・１年普通科の総合的な探究の時間では、京都府立大学との連携により、生徒の思考力、表現力の育成をはかることができた。 ・スポーツ教養コース独自の行事等を実施することで、コースの特色に応じた教育活動の改善をはかる。
		「鳥羽の学びネットワーク」とＩＣＴを活用した教科横断的な活動により、学びの質や深まりを強化する。	A			
		単位制及び観点別評価の導入や土曜授業の廃止による学習状況調査、授業評価、学力状況等の検証を行い、学科やコースの特色に応じた教育活動の改善を行う。	B			
生徒指導	ルールとマナーを守る態度を育成する。	基本的生活習慣の確立、安全指導及び問題事象の未然防止について、その目的・基本姿勢を確認し、教職員が一致した基準・方法で指導する。	A	A	A	・基本的生活習慣の確立が、鳥羽高校の魅力の一つである「入学してから伸ばす」指導や進路実現につながっている。 ・校則の見直しに向けて、生徒会の意見を集約したり、教員間で意見交流できた。 ・身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど、生徒指導部を中心に継続した指導ができており、礼儀をわきまえた挨拶のできる生徒が育っている。引き続き教職員の共通認識のもと、一貫した指導を継続する。 ・コロナの影響で、校外のイベントやボランティア活動に参加することは難しかったが、校内では学校説明会のボランティアに参加する生徒が増えた。
		挨拶を交わす、正しい言葉を遣う、身だしなみを整えることは、マナーの基本であることを理解させ、実践できるよう指導する。	A			
	これからの社会づくりに積極的に貢献する態度を育成する。	生徒会、各種委員会、クラス活動、ボランティア活動などを通じて、協働する力を養う。	A	A		
		部活動を通して、技能を修得するだけでなく、思考力・判断力・表現力を育成し、主体性・意欲の向上につながるよう指導する。チーム内で切磋琢磨し、より高い目標を設定し、突破する力を養う。	A			
		ルールとマナーを守り、自他を尊重する人間関係を築き、違いを認めあう寛容な心を育てる。	A			
		各種イベントやボランティア活動への参加を促し、社会貢献への意識を高める。	B			
	組織的にいじめの未然防止を図る。	いじめについての理解を深め、「いじめ防止対策推進法」「京都府いじめ防止基本方針」「鳥羽高等学校いじめ防止基本方針」に則り、いじめ対策委員会を中心に組織的にいじめの未然防止、早期発見を図る。	A			・いじめについては、引き続き担任、教科担当、部顧問、保護者との緊密な連携により、早期に発見し、対策をとるようにする。
人権教育	あらゆる教育活動をとおして人権教育を推進する。	自他を尊重し人権問題を自分ごととして考える精神を養い、多様化・複雑化する人権問題の解決に向けた人権教育を推進し、教職員研修を充実させる。	A			・教職員対象の人権研修を含め、日常の教育活動を行ううえで、さらに人権意識を高める取組の継続が必要である・人権学習の内容によっては事前の教員研修や事後の丁寧な振り返りが必要である。
進路指導	生徒一人一人の進路希望を実現する。	分掌、教科との連携のもと、組織的な指導体制により、個に応じたきめ細かい進路指導を行う。	A		A	・京都南ロータリークラブと連携した１年生対象のキャリア・ガイダンスは、大学進学だけでなく、働くことを意識させる取組として有意義であった。今後も継続していきたい。 ・学校として一貫した進路指導をさらに推進する。
	職業観・勤労観を育成する。	望ましい職業観・勤労観を身につけさせ、主体的に進路を選択する能力・態度を身につけさせるため、計画的・継続的に進路指導・キャリア教育を行う。	A			
情報教育	タブレット等のＩＣＴ機器を活用し、広く（グローバルに）、新時代（AI、 Society 5.0）を主体的に、創造的に拓く態度を育てる。	情報リテラシーを身につけ、ＩＣＴ機器を正しく効果的に活用することで、知識を体系・系統化、応用し、意見交流することができるようにする。	A			・ＩＣＴの効果的な活用について、教員・生徒双方が工夫しながら試行した。教科、総合的な探究の時間、ＨＲ活動で幅広くＩＣＴ機器を活用できた。・ＩＣＴの正しい活用を目指し、引き続き情報リテラシーを身につけるための指導を継続する。
グローバル人材育成	ＷＷＬ事業拠点校、ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ･ﾈｯﾄﾜｰｸ京都校として、グローバル・リーダーの素養を涵養する。	平常の授業に加え、対面やオンラインでの国内外の人々との対話をとおして、多様性を尊重する態度及びグローバルな視野を持って思考・判断・表現する力を育成する。	A			・オンラインでの交流を活発に行うことで、広い（グローバルな）視野を獲得することができた。
保健・特別支援	健康の保持増進と支援の必要な生徒の課題解決に必要な学校環境作りを進める。	検診等の結果を踏まえ、生徒の心身の健康の保持増進に努め、学校における保健管理、安全管理を適切に進めるとともに、支援の必要な生徒の教育的ニーズに応じて学習上、生活上の困難を改善する。	A			・支援や配慮の必要な生徒に対して計画的に会議を開き情報共有をはかることができた。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、外部機関と連携し、適切な支援の方法を考えることができた。
読書指導	読書活動を推進する。	図書館利用を促進して読書活動を活性化し、豊かな教養と広い視野を育てる。	A			・国語の読書課題や総合的な探究の時間の資料探しで図書館利用を推進することができた。 ・生徒が主体的に読書活動に取り組む活動を考える必要である。
家庭・地域社会との連携	家庭・地域・社会との連携と交流を積極的に行う。	HPをはじめ、説明会や出版物等を通じ、本校の教育活動に関して幅広く積極的な情報発信を行い、本校への理解を深める。	A			・ＨＰ掲載や学校説明会における生徒のボランティア活動や実践発表等をとおして、本校の教育活動を幅広く発信することができた。
施設設備・文書・情報管理	学習環境の質を確保する。	生徒の安全を確保するとともに、よりよい教育環境づくりに向けて施設・設備の充実を図る。	A		A	・自習室を設置し、活用することができた。 ・空き教室が少ない現状があるが、面談場所を確保する必要がある。
	個人情報に配慮した文書管理・情報管理を行う。	紙文書、デジタルデータともに、個人情報に配慮した適切な文書管理・情報管理を行う。	A			

評価の基準　Ａ：十分達成できている。（目標以上の成果が得られている。）　Ｂ：ほぼ達成できている。（ほぼ目標通りの成果が得られている。）　Ｃ：達成できているとは言えない。（成果はあったが、目標は達成できていない）　Ｄ：ほとんど達成できていない。（ほとんど成果が得られていない。）

学校運営協議会による評価	地域、保護者が鳥羽高校に求めているのは、規律ある中にも、主体的に行動し、学習できる生徒の育成である。学習面に関しては、塾に行かずに、高校の授業だけで大学に行けるかどうかは、保護者にとっての大きな関心事である。施設・設備では私立高校には勝てないが、文武両道を大切にし、授業と部活動で大学に行くことができる、礼儀正しい生徒が多いという鳥羽高校の良さがある。その良さを大切にするとともに、今後はさらに、中間層の生徒のつまずきや悩み、不安等にきめ細かく対処すること、大学入試に関しては、総合型選抜や学校推薦型選抜での合格を目指すなど、生徒に幅広い選択肢を示すことが必要だと思われる。
次年度に向けた改善の方向性	保護者アンケートの「よくあてはまる」「まったくあてはまらない」に注目することで、保護者が学校をどのように見ているかがわかる。大半の保護者が鳥羽高校に通わせてよかったと思っているが、一方、塾に行かずに授業中心での大学進学を目指しているなどの鳥羽高校の良さが保護者に十分に伝わっていないように思われる。次年度は鳥羽高校のさまざまな取組を保護者に公開することで、鳥羽高校の魅力を発信してはどうか。また、鳥羽高校にとっての最悪の状況が何かを考え、これを避けるための方策を考えることが次年度の課題となる。